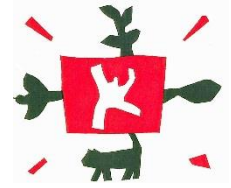


公同通信



2017 年 8 月 26 日 252 号 (461 号)

日本基督教団 西宮公同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email koudou@gamma.ocn.ne.jp

<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 150

「神による養い」

出エジプト記 16 章 13-16 節

マタイによる福音書 6 章 25-34 節

西宮公同教会に出入りさせていただいたのは、関西学院大学神学部にいたころですから、30 年近く前になります。現在、西中国教区、山口県は山陽小野田市、日本基督教団小野田教会の主任担任教師をしております。

さて、かつて神学生の頃、自分も必ず教会の牧師として赴任し、牧師館に住んで毎週礼拝説教し、牧師謝儀を受け取るそんな生活になるものだと思い込んでおりました。確かに現在はそういう生活なのですが、その生活を得るまで、丸々

26 年の月日を要しました。

1989 年秋の教団教師検定試験を受験した後、そのまま 11 月に東京の寄せ場・山谷地区に入ります。その後、1991 年の 6 月に山谷地区に建った労働者福祉会館・日本基督教団日本堤伝道所の担任教師になりました。以後、2004 年の 3 月に辞任、東京教区北支区の教会の副牧師を経て、2007 年 4 月から千葉支区の三里塚教会で協力教師として招かれ、以後 9 年間、2016 年 3 月までその任に就き、その間、福祉機器のレンタル会社に働いたり、

時代にふり回されるのではない

あの時 心を躍らせて生きた

後悔に 身をふるわせたこともある

笑い 泣き 歯ざしりをした

今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい

自分の人生を語ってほしい

土日は結婚式の司式をしたり、はたまた警備会社に勤めたり、と様々な経験をしました。警備会社からは正社員の打診を受けました。その代わりの条件が土日も現場に出て勤務すること、ということで、月に一度の三里塚教会もブライダル牧師も、捨て去るかどうかの瀬戸際に立ちました。その時、2015年11月に西中国教区の小野田教会へと橋渡しされる連絡を貰ったのでした。長々と語るようになりましたが、学生時代にお世話になった西宮公同教会の皆さんにその後のわたしの経過をお話すると、ざっとかいつまむだけでもこうなるのです。

自分は、どんな生活を送っていようと、一人の牧師であり、伝道者であるというのが自分の矜持でもありました。それを捨てるかどうかということまで来たとき、神様はそれをお赦しにならなかった。改めて、牧師、伝道者として働けという使命を下さったのだと固い信仰に立ち、日々過ごしているつもりです。しかしながら、小野田教会は、前任の先生が41年の長きにわたり、お一人で牧会してこられた教会で、良くも悪くも「教会はこんなところ」という固定観念のようなものがあり、新参者で、教会では年少者になってしまう私の言うことなどなかなか通用しません。蓋を開けてみれば、少々手ごわい牧会を強いられているのが現状です。そんな中で、地元の市民運動の人たちとの関係が生まれ、その人たちが礼拝に出席してくれるようになり、今はその中から一人でも信仰に導かれるようにと

祈っています。だが、一方で旧来の小野田教会には、ついつい愚痴めいた事ばかりを陰で言うようになっていた、そんな自分を自覚せざるを得ません。そして、それを強く悔い改め、何事にも感謝と喜びをもって接しなければ、何も変わらないと実感させられています。そう、私は教会に対して愛が足らなかった、と猛省しているのです。

実際、毎日生きていく中で、喜びや感謝ではなく、自分では正しいことをしており、言っているつもりで、実はそれがただの不平や不満でしかないこと、ひいては口から出るのは愚痴でしかなかったり、陰口にしかなっていないということがあります。どこかの総理大臣が「人の演説を邪魔するようなことは、我々は絶対にしない」とか、「増悪からは何も生まれない。こんな人たちには負けられない。」とか選挙演説で言ったとか、ニュースで出ていました。しかし、野党議員の質問にヤジを飛ばし、邪魔をしているのが当の本人であり、「共謀罪」なんて恐ろしい法律を委員会採決をすっ飛ばして、本会議で採決なんて増悪を煽るようなやり方をしておいて、よう言うわ！とは思いますが、正しいことを言ったり、やったりしているつमりの時ほど、自分を省みないといけない。私は、そんな罪に陥っていたのです。

イエス・キリストの御言葉は、そんな私たちが陥りがちな、自分は正しいとか冷静に何かを客観視出来ているとかの思

い違いを静かに悟らせてくださいます。
今朝は、「思い悩むな」という見出しのついた山上での説教の御言葉から訊きたいと思います。

「だから、言っておく。自分の命のことで何を食べようか、何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値のあるものではないか。」とあります。

この御言葉を読んで、神様は何にもしなくても、自分たちを養ってくださる。毎日、何の心配もしなくていいのだ、と単純に解釈する向きもあるかもしれませんが。しかし、それはちょっと違います。種を蒔き、刈り入れ、倉に納める、そういう人間の生産的な活動をイエス様は否定されてはいません。人間なら、そういう労働に携わるのは当然なのです。しかし、それは生きるための手段であって、生きる目的ではないということは見落とされがちです。正しいことをやっているつもり、正しいことを言っているつもり、それがどうして周囲は理解出来ないのかと嘆くとき、手段と目的がはき違われているということがあるのです。

私も教会がより良くなると思い、役員会で提案したり、毎週の礼拝説教で訴えたりと日々努力しているつもりでした。

しかし、この「こうすれば良くなるのに」という思いは感謝ではなく、悪い意味で現状批判であり、それに賛同しない人のことを、即、裁いてしまうということに陥るのです。何で分かってくれないのだ！自分が正しいのに！という不平や不満にしかならないのです。到底、感謝にはならないのです。カッカして愚痴や不満を言うぐらいなら、立ち止まって空の鳥を見るのです。お前一人が孤軍奮闘しているつもりで何かを生かしているのではないよ。空の鳥を見ろ。神様はあの何にもしていないような鳥をも養われているのだよ。今のお前は何か大切なことを忘れていないか、という問いかけなのです。その問いの前に、はたと気づかされるのです。このままではダメだ！なるほど、その通りかもしれません。しかし、このわたし程度が、認識して変えなければと思うことなら、とうの昔に神様はご存じなのです。その信仰に立ち、神様が変わっていかれるものに、自分が用いられるのなら、喜びをもって取り組むべきことだけをすれば良いのです。しかし、つつい自分がやらねば誰がやる、というような身勝手な使命感取りに陥ってしまいます。そんな思いから来るものは、同調しない者を非難したり、他の意見が聞き入れられなくなってもいます。だから、キリストは言われます。

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日

自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である」

まず、すべてのことに先立って神の御心を尋ね求めよ。つまりは、自分が認識する問題とか改善すべきこととか、こうあるべきとか言う問題意識は既に神様をご存知なのだ。神様は私たちに不平不満を言い、人を攻撃することを望んでおられるだろうか。違う。御心はどこにあるのだろうか。それをまず求めよ、そうすれば後のことは自ずと解ってくるということなのです。その日の苦労はその日だけで十分なのです。

この御言葉は旧約出エジプト記にある、マナについての記述からも読み取れます。出エジプトの荒野の彷徨にあったイスラエルの民は、飢えと渇きとも戦いました。エジプトでは奴隷労働の代わりに肉入りの鍋料理が食べられ、それが思い出されて仕方がなく、つつい指導者モーセへの不平不満、愚痴が口をつきます。ある朝、大地の表面を覆う薄くて壊れやすい、でも蜜入りのウエハースのような味の食物「マナ」が与えられました。そのマナについてモーセは「あなたたちはそれぞれ必要な分、つまり一人当たり一オメル(約2.3ℓ)を集めよ。それぞれ自分の天幕にいる家族の数に応じて取るがよい」と指示します。欲をかって、二日目の分も取り置きしようとすると、虫がついて次の日は臭くて食べられない。ただし、安息日の分だけは取り置きしても腐らなかったという不思議な食物です。マナとはまさ

しく一日の苦労の対価です。貪ろうとするよりも、今日一日の分を感謝して受け取り、今日一日を誠実に生きることが大切です。シャカリキになって、苛立つぐらいなら、空の鳥を見て野の花を見て、自分自身を省みましょう。私たちは神様から養われ、大切にされているのですから。

(福山隆一)

註：1983年、関西学院大学神学部に入學された福山先生は、子どもたちの「塾」、夏休みのキャンプと西宮公会教会の子ども活動に交わっていただきました。



～どろんこと太陽～2017

西宮公同幼稚園の子どもたち

♪うみだよかわだよあおいなみずはふー
ねーこげばさかなもおどる～

今年の夏、気がつく和家人でも口ずさんでいたこのわらべうた。海！川！水！そんな自然の恵みを体いっぱい、心いっぱい子どもたちと感じた夏休みでした。まずは後川キャンプで子どもたちが楽しんでた川。手で川の水を触っただけでもわかるその冷たさで、子どもたちはとても気持ちよさそうでした。菅井啓之先生と散策したときは、1人1つ袋を持って心ひかれたものを袋に入れる、まるで宝探しのような時間。川を訪れると、「1つこれだ！という石を探してごらん」という菅井先生の合図で無我夢中、子どもだけでなくもちろん大人も！「おお！！」と菅井先生の声が響くとなになに！？と大慌てで集まっていた子どもたち。1人がチャートを見つけると「これは？」とチャート探しが始まったり。たくさんの水滴の粒がついて光る宝石のようなきれいなはっぱを見つけていたり。子どもたちの袋の中にはそれぞれ違う自然の“宝物”がいっぱい。川に隠れている面白い！をたくさん発見できた散策でした。散策の途中、森の働きのことを「自然のクーラー」とおっしゃっていた菅井先生。そのあと、暑いねという会話の時に女の子が「風のクーラーで冷やすから大丈夫！」といていたりと、子どもたちの心の中

で続いているわくわくを感じました。

そして沖縄キャンプで出会った海！沖縄に到着してすぐに見た海に大喜びしていると「海はどこにでもあるよ」と沖縄の子どもが笑っていました。入るときはもちろん沖縄の子どもたちも大喜び、そんな交流もうれしかったです。海に入ると私たちを出迎えてくれたのは小さな魚たち。透き通る海の水と色鮮やかな青色の魚たちに心が躍りました。

幼稚園では夏休み前から始まっていたプール。はじめてプールパンツを持ってきた日からいつ入るのかな？とわくわくした表情、そして今日プールはいる？といたるところで聞いていたり。子どもたちが大好きなプールの時間は、21日から始まった夏期保育でも。朝登園するときには大切そうにプールパンツを持ってくる子どもたちがかわいかったです。そんな幼稚園の子どもたちの生活とともにある津門川。春には年長さんのこいのぼりが泳ぎ、夏には笹飾りやヒマワリの花が彩る。公同幼稚園の子どもたちは散歩中にヒマワリと背比べを。夏休みもヒマワリを見ながら背比べのことを思いだしていると、ヒマワリをじっと見つめて笑っているご夫婦や、「次はどこにお花が咲くかな？」という様子で会話を楽しんでいる親子、もちろん背比べも！という地域の方々との出会いもあり、ヒマワリ、そして津門川でつながっている同じ思いや喜びを嬉しく感じました。

同じ“みず”だけれど、海・川・プール、場所によって感動が違う“みず”。秋が近づ

いていますが、もうしばらく「♪うみだ
よかわだよ～」と思わず歌いたくなる、
そんな日々が続きそうです。夏ももう少し
楽しみたい、もちろん秋の恵みも待ち
遠しい、いろんな出会いを子どもたちと
楽しみたいと思います。

(原田絵梨)

津門川

川そうじ

みなさんの参加協力をお待ちしています

9月3日(日)

日時・毎月第1日曜 昼12時集合
(雨天の場合は、第2日曜日)
集合場所・西宮公同幼稚園前

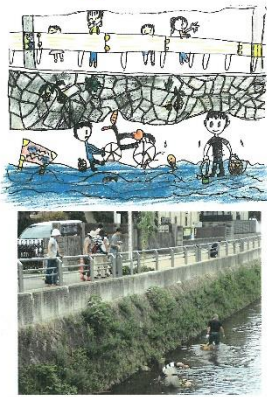
主催…にしきた商店街・津門川の自然を守る会
協力…甲風園3丁目自治会、
西宮公同教会教会学校、西宮公同幼稚園

9月の津門川・川掃除は、9月3日(日)です。

津門川・川掃除は、2016年6月頃から地域の小学生(5、6年生)が、2～3人から多い時で、5～6人参加し、川にも入っています。小学生たちが川に入るには、条件があります。

- 1、必ず、そこに大人がいること。
- 2、裸足ではなく、必ず靴を履いていること。
- 3、軍手も着用すること。

確かにゴミが多かったりしますが、山陽新幹線の地下水が流れ込む津門川は、水質、水温、水量が保たれている為、阪神間で一番たくさんの種類の川魚が泳ぎ、水鳥の集まる川です。



川そうじの後は、参加した「老若男女」の交流会です。

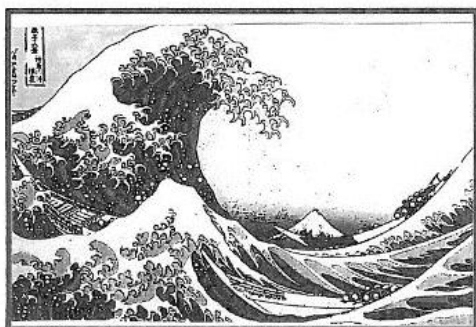
日本基督教団西宮公同教会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公同教会集会室
聖書研究祈祷会	毎週第1・3水曜日午後7時から	於：西宮公同教会集会室
読書会	毎週第2・4水曜日午後7時から	於：西宮公同教会集会室

(早天祈祷会、聖書研究祈祷会、読書会は、2016年4月よりしばらくお休みしています。)

晴れのち福ちゃん さちお構お

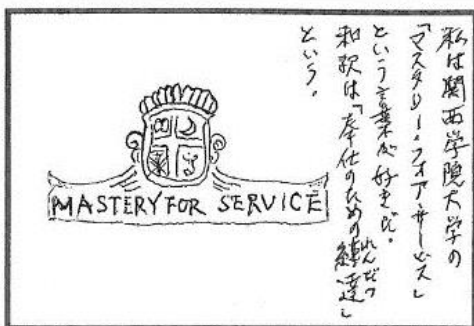
画 狂 人 ・ 北 斎



『北斎 漫画と版画』林美一他著 新潮社刊より

晴れのち福ちゃん さちお作

好 き な 言 葉



あんなこと こんなこと

2017年7月16日(日)

教会学校(プール)

暑い暑い夏です。水遊びが楽しい季節になりました！「もう、入っていい？」「わあ～、つめたい！」と、キャーキャーと水の中に入っている子どもたち。途中からは、「みんな、集まれ～！」と園長先生。「見とけよ。」と。「なんだ？ なんだ？」と、見たこともない数の水風船が、一気にドカーン！ またまた、キャーキャー！

プールに入らずとも、水のシャワーで、キャーキャー！



2017年7月24日(月)～26日(水)

公同子ども後川キャンプ

篠山市後川・旧後川小学校

夜の星、羽束川(はつかがわ)の清流での川遊び、公同子ども後川キャンプだけの特別な道で登る大野山への登山など、いっぱいのお会がありました。

子ども35人、スタッフ15人参加



2017年8月1日(火)15時～

にしきたクリーンアップ作戦

にしきた商店街を、自分たちの街は自分たちできれいにする。そして、きれいな街になり、多くの人たちをお迎えできればいいと思い、地域の人たちも、店舗の人たちも集まっています。



2017年8月2日(水)～6日(日)

公同子ども沖縄キャンプ

沖縄県国頭村今帰仁村仲尾次

兵庫の子どもたちと、沖縄の子どもたちが一緒に過ごすさりげない時間の中で、沖縄の人たちが普通に生活する様子と出会えるのが「合同・子ども沖縄キャンプ」です。



～あるがままに～

「順子先生の出会い日記」

そんなに年ではないと思いつつも、お別れもそれなりに多くなっていく中で、心掛けていること、「お互いに生きているうちに！」

「体調がよくないんだったら、悪いって知らせてくれたらよかったのに」とか「もう一度会って話したかったなあ」なんてお別れがあってから口にしたくない、そう思ってきました。親などはもちろんのこと、そしてそれ以上にこれまで見守ってくださった方々とは可能な限り最後までことばを交わす機会をと願って、そうしてきました。

阪神淡路大震災後、大好きな人の仲間に加えた（勝手に）Mさん、これまでも健康に配慮しながら生活してこられていたけれど、特に最近衰えが、特に今のことを忘れることも多くなってきている、そんなお知らせをいただきました。昨年「鶴瓶の家族に乾杯」の番組を偶然に見てくださって「順子さんだ」とすごく喜んだのに翌日には「そんなことは知らない」などそういう感じとの連絡。それは大変、もっとも忘れられたとしてもこちらが忘れていなければいいわけで、そう慌てることもない、でもいろいろ話したいなあ。そんなことでこの夏の一番の予定に入れた北海道行きだったのです。北海道は広い、絶対に車でないと行けない、とても数時間をそれも往復なんて一人ではとっと思っていたら、行きと帰りそれぞれに素敵な方に助けてもらえての旅

となりました。伺った日は全国からその地に何百人からの人が集まってくるおまつりの日。でもMさんとゆっくり過ごしていたわたしに、お連れ合いが「順子さんはほんとにMに会うためにだけ、はるばるここまで来てくれたんだね」。そうです、もちろんです。

さて行く前にふと思い出したのが数年前に読んだ本のこと、乃南アサの作品で、2010年に発行されたのが「地のはてから」。その後文庫本で上下巻として出版されている。今回、北海道に行くにあたり、どうしても読み返したくなった。Mさんのお連れ合いには「開拓時代じゃないけれど、やはり北海道は遠いですよ」なんて訳のわからないことを言ったりしたのですが、でも「はるばるここまで」の場所、新千歳とかまで北海道には2時間で行けてもそこからのアクセスは、で、その本の主人公は幼い時に、福島郡山から青森、青函連絡船を経て、次は汽車で網走まで。ここから先は鉄道はないという大正のはじめに、土地の下げ渡しのことばと「北海道移住手引章」を信じた父親に連れられ家族4人で入植する。網走の先は船で斜里まで、そして宇登呂に、そこからまた岬に向けての「イワウベツ」という場所（ここは結局開拓不能で徐々に仲間は減っていく）。正月に福島を出てそしてその場所で開墾を始めるのが4月くらいになって。それほど北海道の自然が厳しいのは当然なのだけれど、最後には十数組の仲間はみんないなくなったという。

さてその本の中で目にした「おんねべ

つ」、M氏にいただいた来し方をまとめられた「わが故郷・オンネベツ」、それで本の話と M 氏の故郷を一緒にしてしまったのですが、M 氏のご出身は「温根別」で、旭川と名寄の間くらいのところ。本に出てくるのは遠根別だったのです。とはいえ、今回かって読んだ本とそして M 氏の本や話とがつながって、またもちろん北の大地での生活はどんな表現であれ、寒さはもとより、貧しさなども加わり開拓は厳しいなんてものではない、どちらの本にもハルニレの大木を倒すことから、根のはびこり方が尋常ではないクマザサの藪との闘い、根を処理しても石や岩ばかり、そんな先の見えない闘いの様子が記されている。ただそこには先に入植した人だけでなく、先人との出会いもあり、北海道という場所についてあらためて考えたい。

M 氏はおじいさんが石川からオンネベツ原野に入植された、そして M さん夫妻はそれぞれの故郷を大事に、M 氏の次の任地は北海道にとずっと願って和歌山の地におられる時に最後それを叶えて赴かれ、今もそこで過ごしておられるのだからすごい。しかしわたしが計 10 回にもならない北海道行で、今回少しつながったことがあったからと言って、すごいとか何だとか言うのはそれこそ「ちゃんちゃら」可らしいことのような思いでもあります。これは著書にもあるから書いていいのしょうけれど、かつての先祖の入植そして開拓のように山深いところを開墾して山小屋も作られ（これが、順に進化していつている）北海道の大自然とそれこそ自然に暮らされています。

地名に多いアイヌのことば、そして生活の中でのことばもいろいろ知ることになったけれど、M 氏の本の表紙は「ハルニレ」。この北の大地の樹木をかつて絵本「はるにれ」で知った。その木が北の地でよきにつけ、また逆の面でも多くの顔を持ち多様な働きがあることも今回よくわかった。かつての絵本、今回の旅と語らい、いただいた著書、そしてかつての本などが合わさってあらためて「ハルニレ」とも「出会った」。もう一度行ってみたいなと思っています。

「こうぞう版行動報告書」

8 月 17 日（木）から 28 日（月）まで阪急百貨店うめだ本店の 9 階で開催の「鉄たび展」に行ってきました。外出予定日は決めても内容は近くなっても決まらないことはよくあります。今回は夏休みが重なるということで、なんぞやるやろうと調べるとやっていることがわかりました。ヘルパーさんのお願いする時間も変更なしでお願いできました。入場料 800 円が身体障害者手帳を提示すると無料で入場できて付き添いする人も 1 名まで無料で入場できました。

その日の昼食はグランフロント大阪で 4,000 円近くするヒレスステーキを生ビールも味わいながら食べました。ちなみにその店はお好み焼き屋で、ヘルパーさんはブタ玉を注文していました。

（下平 浩三）

～♪ぼくのみる空ときみのみる空はつながっているから～

「アメリカでも奮闘しています」

6 月初旬から始まった長い夏休みも終わり、8 月第 3 週目から新学期が始まりました。2 ヶ月間は長いと思っていましたが、あっという間に過ぎ、大人も子どもも忙しく駆け抜けるように夏休みを過ごしました。

日本語補習校（週に一度、土曜日に日本の教科書を使って国語や算数などを習う学校）の 2 週間の集中学習から始まって、山のような宿題とともに始まった夏休み。宿題をどう終わらせるかが親子共々最大の課題ともなっていましたが、たくさんの方々の協力もあって、なんとか終わりに近づいています（時に教会のメンバーが宿題を見てくださいました）。補習校が始まるのが 9 月第 1 週目なので、なんとかそこまでに終わらせられそうです。

子育てをしながら、自分の幼かったときのことを時々思い出しますが、私が小学生だった頃は、夏休み、よく自転車で近所の図書館に行って一人で宿題をせせと進めていた記憶があります。午前中は図書館、午後はプール、といった感じで自分で自由に行動していましたし、お友達の家遊びに行くのも、親に付いて行ってもらった記憶はありません。ですが、今の時代はなかなかそうもいかず、特にアメリカでは一人で子どもを行動させることは危険につながるのです。

ません。行き先はいつも親の行く場所に偏りますし、また、車での移動になるので、子ども達には窮屈なことだろうと感じます。

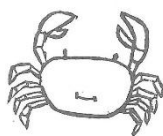
この夏休み、教会の日本人メンバーのご親戚で、小学一年生の女の子が、おばあちゃんと一緒にアメリカにいる家族を訪ねて来ました。彼女がサッカーデイキャンプに参加したいというので、英語の通訳を兼ねて私たちの子ども達も一緒に参加しました。朝 9 時～12 時までという 3 時間のプログラムが 5 日間ありました。私の子ども達はこの 4 年間、教会主催以外の夏のキャンプに一度も参加した経験がありませんでしたので、ネットで英語で申し込みする時点からすでに親もドキドキしていました。ですがなんとか簡単に申し込みが完了し、当日を迎えました。夏のキャンプというのはこちらでは一般的で、特に宿泊ではなく、デイキャンプの形で様々な体験をしながら子ども達を預けることができるというある意味「塾」のようなものです。両親ともに共働きしている子ども達は、夏休み中キャンプのはしごです。ですが、それなりに金額が高いので、親も大変です。サッカーキャンプは 5 日間預けて一人 150 ドル（日本円で約 1 万 6 千円）と格安でしたが、姉弟二人とも預けると 300 ドルを超えるので、私たち家族にはこのキャンプが初めて最後のキャンプとなりました。

知らないお友達と、知らない先生との

出会い、また初めてするサッカー。子ども達は不安を抱えながらも毎日一生懸命汗を流してサッカーを学んで来ました。特に、日本から来たお友達の英語のサポートに意欲を燃やし、初めての環境で緊張している中でも一生懸命お友達を気にかけている姿には感動しました。

小さなことでも、子どもの成長を近くで見られるのが夏休みのいいところです。自分が言語で苦労したことがあるからこそ同じ悩みを抱えた共をサポートできる、そんな彼らの姿を誇らしく思えました。毎日が忙しく、子ども達の小さな努力や行動にも気がつかないことが多い日々です。そんな中で子ども達と長い時間一緒にいる時は、時に面倒にも、時に大変にも感じることもありましたが、親にとって、子どもとの関係、家族の関係を見直す機会にも恵まれ、私にとって素晴らしい夏となりました。

(山本 知恵)



名護ぬ七曲(59)

沖縄の文化1 旧石器時代

これまで『ジュニア版 琉球・沖縄史』という本を読みながらこのコーナーを書いてまいりましたが、本は仲井眞弘多(前)知事のところまでで終わり。その後の翁長雄志知事の時代については新版

に載ってるのかな？ 少し大きめになって新しいのが出てますね。今度本屋さんに行った時に買って来たいと思います。山川の『世界史 B 用語集』も大分古くなったのでそろそろ買い改めたいところ。どうせなら図説も欲しいな。世界史の図説だったら一日中見てられる。高校生だった時と違って覚えなきゃっていうプレッシャーが無いので気楽に勉強できるのがいいですね▼さて、これまで本(『琉球・沖縄史』)を辿りながら沖縄の歴史を見てまいりましたが、実は所々すっ飛ばしてきたページが幾つかあります。それは文化面。なので今度は沖縄の文化史について少しずつ触れていきたいと思います。また旧石器時代に戻ります。

【琉球列島の誕生】 琉球弧が現在の地形に落ち着いたのは今から約1万年前、だそうです。それまでは変動を繰り返しながら、大陸とつながってた時期もあったりして、生き物が往来していたであろう形跡が残されています。ゾウも居たらしいですよ。宮古島や沖縄島で化石が発見されとるらしいです。昔はゾウが居たのか、凄いな。リュウキュウジカ(鹿)の化石も見つかってるそうです。でも大分の田舎育ちの私にとってシカはあんまり珍しくない気がするな。山に行けばなんぼでもおるけんね。現在も生息している希少な生き物の代表選手としてはやはりイリオモテヤマネコ。1967年に西表島で発見されました。発見というか「確認

された」でしょうね。地元の人たちは山に何かネコの的なものが居るってことはさすがに知ってたと思います。それがどんな種類のネコなのか研究者が来て調査したところ、今まで知られていなかった種類のネコだということが判明した—ということですね▼いすれにしてもこうした生き物たちは（化石も含めて）沖縄がその昔大陸やヤマトとつながってたことを裏付ける証拠でもあるわけです。今は海によって隔てられておりますけれども、この隔たりが後に島々独自の文化を生みだす基礎的条件となるわけでありますね。

【旧石器時代の人の痕跡】さて、琉球列島や日本列島が大陸と地続きであった頃、いろんな動物たちがそこを行き来していたということは、それを追うようにしてきつと人間たちもやって来ていたはずであります。その証拠ともいえる旧石器時代の人骨化石が実はこの沖縄で発見されています。発掘場所であった具志頭村港川(当時)にちなんで「港川人」と呼ばれております。測定の結果 1 万 8000 年前の新人であることがわかりました。新人って言う割にはずいぶん大昔の人なんですけれども、この港川人と縄文人の関係とか、また沖縄人の直接の祖先である

かどうかとか、大陸のどこからやってきたのかなど詳しいことはまだ分かっていないみたいです▼ちなみに港川人の発掘を初めに手掛けたのは大山盛保(おおやま・せいほ)さんというアマチュア研究者。「動物の骨が出てくるということは、ここに人間も住んでいたはずだ」と信じ、港川フィッシャー(採石場)を掘り続けたのです。そしたら出てきたわけです人骨が。それもほぼ全身分。しかも国内最古の部類。これまた凄いことだ。

高校卒業と同時に、他の教科書は躊躇なく全部捨てちゃったけど、世界史 B の教科書と用語集と図説だけは取っておいて、卒業してからも、時間があれば開いてよく読んでました。面白いからね。面接で「趣味は？」って聞かれたら間違いなく「世界史 B です」って答えると思います。でもいくら歴史好きとはいえ、自分で直接地面を掘って調べようと思ったことは一度もないな。まずそこまでの情熱と体力と財力が私にはございませんし、掘って何か出てくればいいけど、何も出てこなかった時のことを考えると、家族や世間から何て言われることやら…恐ろしい。掘る人って本当に偉いと思う。

(羽柴 禎)

教会の火曜日 10 時から 12 時 於：西宮公同教会集会室

第 1 火曜日	わいわいお茶会
第 2 火曜日	ゆっくりと聖書を読んでみませんか
第 3 火曜日	読書会
第 4 火曜日	社会のこと、世界のこと

～つとがわ・あれこれ～

飯館などで、飲み物を注文した時に付けてくれるストローは使いません。飲む人だったら“ゴクゴク感”が好きなのだと思います。（“誤嚥”が心配な場合もありますから、子どもなどの場合はストローを活用する方がいい）。

ストローで遊ぶのは好きです、ストローの薄い包装紙を、キュッ！と縮めたものに、水を一滴落とすと、ぐにゅぐにゅと伸びるのを、子どもたちが「きもちわる～」と驚いたりすると楽しくなります。

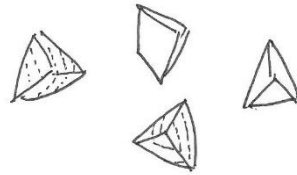
久しぶりに「ストロー飴」を作りました。ウィーンの地下鉄の小さなスーパーマーケットを覗いて見つけたストローが、この辺りで 30 年ほど前に「チェリーストロー」の名前で売られていたストローとそっくりだったのです。早速 5 袋買って、お土産の荷物になりました。全体が、赤、黄、青、緑の 4 色でそれが縦じまに入っている薄手であるところが、「ストロー飴」にピッタリだったのが、「チェリーストロー」でした。随分前に見かけなくなったそれを、ウィーンの地下鉄のスーパーマーケットで見つけたのです。

帰ってから早速、「ストロー飴」を作り、いろんな人たちと一緒に作ったりしています。その作り方。

- 1、ストローを先端の細いハサミを使って、縦に割く。
- 2、割いたストローの一方の端を開くようにして立体的に四角に折る。
- 3、折った四角の端に合わせるようにして三角に折り返す
- 4、四角と三角を合わせるようにして折り、それを 2 回繰り返す
- 5、そうすると、最初に合わせ折り返したところに“戻る”が…、その部分を開いて包むようにして折る（たぶん、ここのところは説明も、実際に折るのも…難しい）
- 6、ここをクリアしたら、そのまま 1 回分残して折り進み、最後にその残りを隙間に差し込むと「ストロー飴」の出来上がり

久しぶりにウィーンで見つけたストローが優れているのは、薄いため、縦じまにそって切り裂くと、極小タイプのストロー飴ができてしまうことです。ほぼ 1 ミリの幅のストロー飴に挑戦していた頃が懐かしい。およそ、25 年前、パレスチナのガザを訪れた時、（パレスチナ訪問団、団長桑原重夫）歓迎会のレストランで見つけたストローが薄手で（要するに安っぽい）集まった子どもたちといっぱいストロー飴を作って遊んだりしました。（あの当時、ハサミは飛行機に乘せてもらえた！）

(S)



夏の全国高校野球、スポーツ全般疎い私もいつになく熱心に観てしまいます。これを書いている今は準決勝の一日。全都道府県の高校生が毎日毎日どんな練習を積んできたのだろうかと想像しながらテレビを観ています。

画面では球児だけでなく、審判、監督、グラウンド整備、解説者、それぞれの端正で真剣な仕事ぶりに人間の美しさが見えます。

第 99 回ですから戦時中も乗り越してきた夏の甲子園。

沖縄戦、広島、長崎、原発事故、数々の自然災害に見舞われた各県の高校生達は何を背負って野球をやっているのかなと、画面に映る姿を応援しています。

戦争ではなく野球で戦える今の平和を、少し意識して守らないといけない時代が来たのか以前からそうだったのか分かりませんが、私はどうすべきか、何ができるのか、探し続けるのだと思っています。

(Y)

7 月 26 日、第一子となる女の子を出産しました。34 週で逆子が分かり、最後まで戻ってくれることを期待しましたが、きっと頭が上の方が居心地が良かったのでしょうか。帝王切開での出産となりました。予定日より 3 週間早かったのですが、元気に産まれてきてくれて本当に安心し、なんとも言えない感動的な瞬間でした。

小学 4 年生の姪っ子がとてもよく面倒をみてくれました。妹ができたみたいで嬉しいようです。抱っこしたりミルクをあけてくれたり、寝ているかどうかを何度も確認しに行ったり～。そんな姪っ子の姿が可愛くて、ほっこり癒された時間でした。

娘は、抱っこをされると、寝ていても薄目を開けて誰に抱かれているかをチラッと確認したり、ミルクを飲んだあとの満足そうな顔が、みやぞんに似ていたり～。どんな表情も全てが可愛い！一日一日の少しずつの成長が嬉しくて、あっという間に 1 ヶ月を迎えました。

(C)

久しぶりに明石の幼馴染に会うために、三宮に行ってきました。

私は、幼稚園のころ父の仕事の関係で、東京に引っ越しましたが、家自体は残っていたので、高校2年生の時にまた戻ってきました。もともと両親とも関西の人だったので、家庭の中では関西弁だったと思います。なので、戻ってきてあまり自分の中では違和感なく交われたと思っています。が、東京で友だちもでき、やはり思春期の高校生には、戻りたいとはあまり思わず、苦痛なところも多かったと思います。その中で、一番分かってくれ、また傍にいてくれたのが、その幼馴染でした。家は斜め後ろで、ベランダから声をかければ答えてくれ、クッキーを焼いては持ってきてくれ、何度泊まりに行き来したか。

そうこうしているうちに、徐々にわたしも関西での生活に馴染んでいきました。一緒に好きな服飾関係の学校に進み、就職もでき、お互いに家庭も持ちましたが、私が明石を離れた事もあり、しばらくは会う機会も少なくなっていました。が、ここ最近また頻繁に連絡を取り、会う事も増えた矢先、彼女の人生で大きく変わる事がありました。夜中に電話がかかってくる、メールでのやり取りは長く続きました。心配もしましたが、やっと落ち着き、ゆっくりご飯でも行こうかの三宮でした。

大きく騒ぐわけでもないですが、ふんふん…と静かにゆっくりと話ができて、また聞いてもくれる。そんな時間と彼女を大切にしたいと思い、また何かあるかもしれないですが(笑)「またね。」とその日は別れました。

(K)

子どもたちの前と、おとなの前とはまるで顔つきが違うなんてことを言われたりするこのわたし。子どもを前にすると「変貌」します、勝手に変わってしまうのでしょうか。

一番幼い相手は未就園、時には数ヶ月の赤ちゃんとも。そんな時間を年に数回、園で持つことができるのは阪神淡路大震災後にそんな取り組みを守ってきたくださった働きがあったから。時に参加者から感想やアンケートも取ってください。おいしいおやつに、心を込めた丁寧な家庭での遊びのキットなどを作る、そんな働きは

とても大きいのに一番人気はわらべうた。7月もプールだったから、まあいいやくらいだったのに「今日はわらべうたの遊びは？」と聞かれたとのこと。時々さぼりそうになると「先生、みんなわらべうたの時間を楽しみにして来られるのですよ」とお尻を叩かれる。その日のメンバー、年齢も何もわからないし、人数だってどれくらいか蓋を開けてみなくてはの「その日暮らし」(?)。で、このわたしがビビるのです、一応。さて暑い8月には大阪で仕事がありました。一日2回の公演、というか遊びのリード。園での機会をいつも支えてくださる先述の方がいる時、「先生は参加者みんなにと声を出し、リードされているけれど、まるでわたし一人にだけ歌って遊んでくださっているような気になる」、エーッ何てことでしょう、そんな素敵な声かけが一人一人にできているとしたら、最高の励ましです。それでその大阪の時間では、自分に言い聞かせて「一人ひとりに届けるのだ」と。その場は遊びが終わったあともしばらくゆっくりしていいのだけれど母子ともにすーっと潮が引くように帰っていかれた。みんなの顔がなんとも穏やかで満足して「これこそ真の子育て支援ね」とその責任者が声をかけてくださった。そしてこのわたし、終わると「わたしってすごい！」と思うのです。

(J)

カット (A・T)



政治・宗教思想研究会／関西神学塾

《今後の講義予定》

9月8日(金) 岩野祐介先生「内村鑑三を読む」

9月15日(金) 勝村弘也先生「申命記史書を読む」

9月22日(金) 手島勲矢先生「トーラー解釈」